

2011年11月25日 (No.2011-02)

FIVB ワールドカップ 2011 女子大会閉幕

全日本女子、ロンドンへ望みをつなぐ4位



●FIVB ワールドカップバレーボール 2011 女子大会

FIVB ワールドカップバレーボール 2011 女子大会は盛況のうちに11月18日、全日程を終了しました。

全日本女子は、世界ランキング1位のブラジル、同2位のアメリカをストレートで撃破いただきましたが、優勝したイタリアに1-3、中国に2-3、さらにはセルビアにも不覚を取り8勝3敗で中国と並んだものの勝ち点の差で4位となり、上位3位までに与えられるロンドンオリンピックの出場権を獲得することはできませんでした。

しかし、昨年の世界選手権(3位)メンバーから両センター井上香織、山本愛、エース栗原恵が故障で欠場したことを考慮すると、眞鍋政義監督の下キャプテン荒木絵里香を中心にチーム一丸となって戦った成果であり、ロンドンオリンピックに向け大きな手ごたえを掴んだものと思われれます。

眞鍋監督は「スタートでは躓きましたが、後半5連勝するなど試合を重ねるごとにチームが成長していきました。行く先々で大きなご声援をいただき感謝しています。皆様のご期待に応えるべく今後ますます精進して来年春のオリンピック予選を勝ち抜き、オリンピックのメダル獲得を目標に邁進します。今後ともご支援をお願い申し上げます。」と大会後に皆様への感謝を表明しました。

一方、大会運営面では開催地関係各位のご尽力で、国際バレーボール連盟(FIVB)から派遣された女子大会CCメンバー(CC=Control Committee)から称賛の言葉をいただきました。

選手団とともに各会場を訪れた森田淳悟強化事業本部長(業務執行理事)は、「世界大会はFIVBの大会運営基準に基づいて行われるため、ともしれば理解に苦しむ要請もありますが、開催地の皆様のご理解とご尽力で完璧な大会運営でした。JVAの一員としてたいへん感謝しております。特に連日、各部署で献身的な仕事をしていただいた家庭婦人をはじめ開催地協会の皆様のご御蔭で、選手たちが素晴らしい舞台上でプレーすることができました。同時に忘れてはならないのは日本チームが出場しないBサイト開催地の皆様のご協力です。出場チームを6チームずつに分けて開催する決まりから、どうしても日本チームが出場しない開催地がでてしまいます。Bサイト開催地のご協力があったはじめてワールドカップが開催できることをJVA関係者は決して忘れてはいけません。」と女子大会終了に際し御礼の言葉を述べました。

また、東日本大震災のため当初開催予定の宮城県協会に代わり開催を引き受けていただいた広島県協会の皆様には、魏FIVB 会長から「急きょ開催を引き受けていただいたにもかかわらず、スムーズな運営で、さすがバレーボールの街・広島の色を強くしました。感謝します。」とのメッセージが寄せられました。

テレビの視聴率も好調で試合を重ねるごとに上昇し、全11試合のうち15%以上が7試合、東京ラウンドの対ドイツ戦では17.4%、最終戦の対アメリカ戦では24.1%を記録いたしました。11試合平均の視聴率は、15.5%ですが、この数値は昨年の世界選手権大会の14.5%を上回るものです。(昨年の世界選手権3位-4位決定戦で日本がアメリカを倒して3位を決めた試合は20.5%でした。)

また、13日の対ブラジル戦、16日の対ケニア戦、17日の対ドイツ戦ではほぼ同じ時間帯でプロ野球日本シリーズが放映されておりましたが、これよりいずれも3~7%高い視聴率を確保、共催のフジテレビほか協賛各社、JVAスポンサー各社に喜んでいただくことができました。

なお、全日本女子が再びオリンピック出場権獲得に挑戦するのは来年春(5月予定)、日本で開催されるロンドンオリンピックアジア予選兼世界最終予選となります。この予選で上位3カ国及びアジア最上位国にロンドンオリンピックの出場権が与えられます。

●FIVB ワールドカップバレーボール 2011 の順位決定方式について

今回のワールドカップではこれまでと異なる順位決定方式が採用されています。8月に開催されたワールドグランプリでも採用されておりましたが、ワールドカップのように全チーム総当たりリーグ戦で大会が行われる場合、従前のような勝敗数で順位を決める方式ではなく、勝ち点の多少で順位を決める方式です。この順位決定方式はポイントシステム(勝ち点制)と呼ばれています。

勝ち点は、各試合の結果が3-0、3-1の場合は勝ちチームに3点が与えられ(負けチームは0点)、3-2の場合は勝ちチームに2点、負けチームに1点が与えられます。この勝ち点を合計し、勝ち点の多い順に順位を決めていくのが勝ち点制です。さらに勝ち点で並んだ場合は勝敗数、勝敗数でも並んだ場合はセット率、セット率が同じ場合は得点率、得点率も同じ場合は当該チーム同士の勝ち負けで順位を決めます。

この方式は勝敗に優先して勝ち点で順位を決定するため、従前にはない矛盾が生じる場合があります。リーグ戦で対戦した全チームに勝ったとしても勝ち点によっては優勝できない場合があります。たとえば6チームによる総当たりリーグ戦で、Aチームが全勝したものの全て3-2で勝った場合の勝ち点は(2点×5勝)10点、一方Bチームが4勝1敗でも4勝が全て3-0か3-1で勝つと勝ち点は(3点×4勝)12点となり、Bチームが優勝ということになります。

18日に終了したワールドカップ女子大会の順位も従前の方式(勝敗数で並んだ場合はセット率または得点率で順位を決める方式)で決めた順位とでは順番が異なります。



このポイントシステム(勝ち点制)は2010年のFIVB理事会で採択されたもので、FIVB大会だけで採用する順位決定方式です。しかしJVAではこの矛盾点に着目し、改善に向けてすでに動き始めています。去る6月に開催されたアジア連盟理事会の席上、FIVBに対して順位決定方式の改善を求めるとともに従前の方式(先ず勝敗で順位を決める方式)に戻すよう提案をいたしました。

ちなみにFIVBの説明によれば、このポイントシステムは4~5年前からヨーロッパ諸国、ヨーロッパバレーボールリーグ、ヨーロッパ選手権で採用され、すでに一般的になっているとのことです。

●ワールドカップ全日本男子出場メンバー

チームマネージャー 鳥羽 賢二

監督 植田 辰哉

コーチ 中垣内祐一 諸隈 直樹

トレーナー 大石 博暁 広報兼マネージャー 渡辺圭太郎

アナリスト 山田 剛久

選手

②阿部 裕太(東レ) ③永野 健(パナ) ⑤宇佐美大輔(パナ) ⑥鈴木 寛史(サン)

⑦山本 隆弘(パナ) ⑧横田 一義(堺) ⑩田辺 修(東レ) ⑪松本 慶彦(堺)

⑫山村 宏太(サン) ⑬清水 邦広(パナ) ⑭福澤 達哉(パナ) ⑮八子 大輔(JT)

⑯石島 雄介(堺) ⑰米山 裕太(東レ)

(以上選手14名)

*東レ=東レアローズ、パナ=パナソニックパンサーズ、サン=サントリーサンバーズ、堺=堺ブレイザーズ、JT=JTサンダーズを表します。

●第2回全国ヴィンテージ8's 交流大会開催について

11月11日(金)～13日(日)まで沖縄県浦添市・浦添市民体育館にて、第2回全国ヴィンテージ8's 交流大会が開催されました。

昨年より開催されている本大会は、男女混合チームが楽しめる大会で、オンザコートは8名で、内3名までの女子選手がコートに入ることが可能です。50歳以上の部と、60歳以上の部があり、女子は当該部5歳下までの選手が出場できます。今年度は全国各地から集まった50歳以上の部24チーム、60歳以上の部8チームが参加しました。

11日(金)に行われた開会式では、60歳以上の部福岡県代表の篠原徹選手(とびうめ福岡)が、「長年培ってきた技術をコートで発揮し、正々堂々と戦います」と選手宣誓。玉城仁沖縄県バレーボール協会会長が「中高齢者のバレーボールが盛んな沖縄県で、多くの選手たちを迎えて大会を開催できることを嬉しく思います。この大会を通じて、交流の輪が広がっていくことを期待しています」と歓迎のあいさつを述べました。

大会では選手たちが年齢を感じさせない元気な姿でプレーし、中には最高年齢81歳の選手も。60歳以上の部は富士山倶楽部(静岡県)が、50歳以上の部では See You Again(福岡県)がそれぞれ優勝しました。

優勝チームには、地元・沖縄の琉球ガラスで作られた美しいトロフィーが贈られました。

大会2日目終了後に行われた交流会では、選手たちがチームの枠を超えて交流し、同じステージで活動する選手たちの活力を確かめ合いました。

また昨年の第1回大会に出場したチームが、大会の運営を補助した高校生にお世話になった心遣いに手土産を持参して渡すなど、選手同士だけでなく、選手とスタッフ間の心温まる交流も見られました。

来年、第3回大会は、北海道小樽市で開催する予定です。



発行・公益財団法人日本バレーボール協会
電話・03-5786-2100 FAX・03-5786-2109

発行人・業務執行理事事務局長 岩満 一臣
Email・generalaffairs@jva.or.jp